

# NEWSLETTER 28

GLOBAL MAPPING

## PCGIAP 理事会会合、2002年10月マニラで開催

下山 泰志  
PCGIAP 事務局



アジア太平洋地域 GIS 基盤に関する常置委員会 (PCGIAP) 理事会会合が2002年10月29日、フィリピン、メトロ・マニラにおいて開催されました。本会合には、理事国8カ国から22名が参加しました。ロシア連邦とクック諸島は欠席でした。審議の主な議題はワーキンググループの報告、関係機関の報告及び2003年の第16回国連アジア太平洋地域地図会議 (UNRCC-AP) / 第9回 PCGIAP の準備でした。

PCGIAP には、地域測地 (WG1)、基盤データ (WG2)、地籍 (WG3) 及び体制の強化 (WG4) の4つのワーキンググループがあります。WG1は、最近の主な活動として、2002年7月にニュージーランド、ウェリントンで行われた西太平洋地球物理キャンペーンにおける統合解の発表及び2002年10月の地域測地観測キャンペーンについて報告を行いました。WG2は、地域空間データ基盤に向けた建設的な取り組みの促進について、国連やISCGM等の機関と協力すべきであると報告しました。WG3は地籍の枠組みを確立すること、そのために次回のUNRCC-APの直前にワークショップを開催するよう提案しました。WG4の審議では、加盟国での数回の研修について、予備調査を行うことが重要であるとされました。

提携機関の報告には ISO/TC211、ISCGM、GSDI 及び PC-IDEA があります。ISCGM の報告では、ピーター・ホランド ISCGM 副委員長が地球地図プロジェクトの最近の進捗について述べました。報告の要

点は、地球地図は現在126カ国の参加を得、着実に発展していること、新委員長の選挙、これまでと今後の会合、WSSDにおける業績及び人材育成活動でした。日本の努力、ことにWSSDにおける努力について謝意が表されました。

第16回 UNRCC-AP の検討が本会合の重要な議題でした。星埜由尚 PCGIAP 事務局長が会議会場及びロジスティックスの予備手配等について紹介しました。星埜事務局長は独特の文化と史跡を持つ沖縄は参加を予定する人に興味深く、素晴らしい環境を提供すると述べました。会議のプログラムの大枠は以下の通りです。次案を準備中です。

### 7月14日(月)

午前：参加登録、理事会会合

午後：開会 / 歓迎の挨拶、委員長の選挙

### 7月15日(火) ~ 7月17日(木)

基調講演、UNRCC-AP の報告、PCGIAP の報告、技術委員会1、2、3、決議案の作成等

### 7月18日(金)

午前：最終本会議

午後：理事会会合

また、7月12日~13日にWG3(地籍)ワークショップを開催し、地球地図フォーラムをWG3と同時に設定することが提案されました。

各技術委員会は PCGIAP 以外から座長を募集し、またしかるべき講演者を招くこともできます。適当な委員会で ISCGM の紹介を行うことも検討されています。

理事会会合で合意した項目を含めて、本会合の成果は必要に応じて国連統計部に通知、勧告されます。

## 地球地図フォーラム2003 in 沖縄 お知らせ

地球地図フォーラム2003 in 沖縄 (略称 GMF03)」が、2003年7月12日～14日、沖縄県で行われることは前号のニューズレターでお知らせしたとおりですが、今号ではフォーラムの概要をお知らせします。なお、参加登録用紙を添付させていただきましたので、参加を希望される方は、5月31日までに、ISCGM事務局へ e-mail またはファックスでご連絡をお願いします。(ISCGM ホームページにも様式を掲載しておりますのでご利用下さい。)なお、参加登録をされなくてもフォーラムへの参加は可能ですが、配布資料の不足も予想されますので、お早目の登録をおすすめします。

### 1. フォーラム日程 (案)

- |          |               |           |
|----------|---------------|-----------|
| 7月11日(金) | 16:00 ~ 18:00 | 受付        |
| 7月12日(土) | 9:00 ~        | 受付        |
|          | 10:00 ~ 12:00 | 開会、基調講演   |
|          | 12:00 ~ 13:30 | 昼食        |
|          | 13:30 ~ 16:00 | セッション ( ) |
|          | 18:00 ~ 20:00 | レセプション    |
| 7月13日(日) | 10:00 ~ 12:00 | セッション ( ) |
|          | 12:00 ~ 13:30 | 昼食        |
|          | 13:30 ~ 16:00 | セッション ( ) |
| 7月14日(月) | 10:00 ~ 12:00 | セッション ( ) |
|          |               | 閉会        |
| 7月15日(火) | 10:00 ~ 16:00 | テクニカルツアー  |

(7月12日～14日はポスターセッションも併せて行う予定です。)

### 見学先紹介

通信総合研究所沖縄亜熱帯計測技術センター  
地球温暖化をはじめ地球規模の気候変動に大きく寄与する大気・海洋の相互作用のメカニズムを解明するために、3種類の電波センサーを研究開発するとともに、亜熱帯海洋性気候帯を中心とした大気・海洋観測を行っています。

#### 海洋博記念公園

1975年に開催された沖縄国際海洋博覧会を記

念して、1976年8月に博覧会跡地に設置された国営公園です。公園内には、1700種を超えるランの花やエキゾチックな植物が見られる「熱帯ドームセンター」や環太平洋で生活する海洋民族の歴史と文化を紹介している「海洋文化館」などがあり、雄大なエメラルドの海に真っ白な砂浜が映える6万m<sup>2</sup>のコーラルビーチ「エメラルドビーチ」に隣接しています。

#### 沖縄美ら海水族館

2002年11月1日にオープンしたばかりの新しい水族館です。「沖縄の海との出会い」をテーマとした、隆起サンゴ礁の中に豊かな沖縄の海を再現する7,500トンの大水槽などを有する世界最大級の水族館であり、大水槽ではジンベイザメやマンタなどが悠然と泳ぐ姿を見ることが出来るほか、「サンゴ礁の旅」の水槽では世界でも例がないといわれる大規模なサンゴの生態飼育を目前で観察できます。

### 2. コンベンションセンター周辺紹介 (別紙参照)

#### コンベンションセンター

国際会議・シンポジウム・フェア等、多種多様なイベントが開催されており、大展示場、会議室、劇場は多目的でフレキシブルな機能を備えた施設としてあらゆるニーズに応えます。

#### トロピカルビーチ

コンベンションエリアに隣接し、ホテルに滞在する観光客、外国人や地元の人々で賑わう都市近郊型の人工ビーチです。ウッドテラス、売店なども完備されています。

### 3. OKINAWA 紹介

沖縄県は、日本の最南端、最西端に位置し、東西1000km、南北400kmに及ぶ広大な海域に点在する大小160の島々で構成されている島嶼(しょ)県です。そのうち、有人島は49です。

位置としては、九州と台湾のほぼ中間にあり、那覇、東京間を半径とする、1500kmの円内には、台北や上海、香港、ソウル、マニラなど、

アジアの主要都市があり、中国、東南アジア、オセアニアなどに最も近い距離に位置する日本の南玄関といえます。

この地理的特性を生かし、14世紀から16世紀にかけての大交易時代においては、中国や東南アジア諸国と親密な交流を行っていた歴史があり、その歴史のなかで香り高い文化を生みだし、染織物、漆器、陶器、芸能、など、沖縄独特の文化圏を築いてきました。

沖縄県は、北緯24度から28度にあつて、日本のなかで唯一の亜熱帯海洋性気候に属しています。年間の平均気温が約23度と暖かく、四季折々の花々や樹木、イリオモテヤマネコ、グ

チゲラ等の貴重な野生動物、エメラルド・グリーンに輝く青い海などに恵まれています。

沖縄独特の文化や恵まれた自然環境は、多くの観光客を魅了し、近年は国際観光リゾート地として注目をあび、日本本土や、台湾、韓国などから多くの観光客が訪れています。

沖縄県では、今日、この地理的、歴史的個性を生かして、近隣アジア、太平洋諸国等と経済、文化、学術等の国際交流を積極的に進め、日本の南における国際交流の拠点として県づくりを進めています。(沖縄県ホームページより)

なお、7月の沖縄は紫外線が強いので、紫外線対策は各自でよろしくお願いします。

## 沖縄へのアクセス



### 沖縄までの交通の便

沖縄へは国外からは香港、ソウル、台北経由の便があります。外国から参加される方は台北からの一日2便のフライト、または関西空港経由の便が便利です。東京での乗り換えは国際空港から国内空港まで約90kmのバス移動があり、乗り換えのみに数時間が必要となります。

## ワーキンググループ 2 の再開

ISCGM では、仕様に関する WG2 の再開を決定しました。地球地図の現在の仕様のうち再検討を要し、WG2 で検討を予定しているものとしては以下のものがあります。ISO/TC211 による地理情報の標準化の進展を反映し、データの相互運用可能性を高めること、小面積の国のニーズに合致することとより広い課題に対応

できるようにするため、作成可能な条件のある国では縮尺 25 万分の 1 に対応する地球地図を作成できるようにその仕様を検討することなどです。ISCGM9 の場で、中国、EuroGeographics、日本、ISO/TC211、ESRI 等からこの WG2 への参加の意思が表明されました。

## ワーキンググループ 4 の立ち上げ

2002 年 9 月に開催された第 9 回 ISCGM の中で、地球地図第 2 期計画のラスターデータの整備に関し、新たなワーキンググループとして WG4 を設置することとなりました。WG4 の座長としては、全球の土地被覆データの整備などの分野に関して見識が深く、地球地図に関しても貢献の高い千葉大学リモートセンシング研究センターの建石隆太郎博士におねがいすることとなりました。今後、JRC、FAO、

NASA などとの連携の可能性を探るために建石先生がそれぞれの機関に派遣されます。そして、広く WG4 のメンバーへの参加を呼びかけて WG4 を組織します。

2003 年 6 月 3 日～6 日にバンコクの ESCAP で ISPRS のグローバルデータセットの WG があるので、その機会に第一回会合を開くことを予定しています。また、7 月の第 10 回 ISCGM に WG4 のメンバーとワークプランを提出する予定です。

## 2002 年地球環境地図作成技術コース グーラム・サルヴァール 2002 年地球環境地図作成技術コース研修員



コース参加者、中央が筆者

過去 10 年の産業革命の結果、地球環境の悪化が深刻な社会問題となり、人間ばかりでなく自然現象、特に開発途上国の自然現象に悪影響を及ぼしたと考えられています。工業施設が引き起こす大気汚染、水質汚染、そして産業廃棄物の問題は劇的に出現しました。自動

車の急激な普及、ゴミや衛生施設が地域規模で自然や生活に脅威を与えてきた環境問題のみならず、これらの問題から生ずる地球環境の悪化も懸念される問題となっています。

空間データが持続可能な開発の様々な分野だけでなく環境保護のためにも不可欠であることは広く意見の一致するところですが。そのため、空間データの基盤実施の取り組みには著しい進展があり、近年、各国は環境情報の収集、格納、処理、解析と普及に空前的な努力を払っています。地球地図プロジェクトは、数値地理情報を整備し空間データ基盤に力を注ぎ、負わされた環境の管理策を創造するだけでなく、経済の発展、社会の安定及び土地管理システムの改善に応える方策として環境問題に取り組む戦略策定に関するグローバルな思考の成果です。

地球地図構想は 1992 年に提案され、続いて 1996 年につくば市の国土地理院に事務局



を置く地球地図国際運営委員会 (ISCGM) が設立されました。1998年にISCGMは世界中の国家地図作成機関に対し、地球地図に積極的に参加し、それぞれの地域について地球地図を整備するよう呼びかけました。これは、他の多くの地域的な要因に加えて、地球温暖化、酸性雨、また環境汚染の原因となっている大気圏のガスの発生が自然保護にとって大きな脅威となっている環境の現状に対して間違いなく大きな突破口となりました。このようにJICAと国土地理院の共同で1994年に集団研修コースが開始し、目的に添って最も効果的に成功裡に運営され、各国の国家地図作成機関の職員が参加し、国土地理院において地球地図を実際に作成する手段を学習しています。2002年には5名の研修員が中国、イラン、パキスタン、サウジアラビア、ベトナムから10月1日～12月15日まで、2ヶ月半にわたる集団研修プログラムに参加しました。

本コースは、環境汚染を最小限に抑えるばかりでなく、自然災害をも減少・防止させるために現在日本で用いられている最新の技術に関する講義や発表から成り立っていたことは言及する価値があります。コースの期間中には、講義や実習の他、関係の多くの場所を訪れる研修・見学旅行も計画され、非常に有意義で豊富な知識を得ることができました。集団研修の最後の月はほとんど実習にあてられました。

日本の専門家や科学者が世界の現状をより美しく、より繁栄させ、大気汚染を無くすために

研究の分野で飽くなき努力をし、それを目の当たりにしたことは私たち全員にとって本当に素晴らしい経験でした。彼らの誠実さと仕事へのこだわりは、人類の発展のために何か意義のあることを行おうとするすべての人々にとって手本であると確信します。資源のモニタリングや大気の劣化とその生物の多様性や生き物に対する悪影響の問題に取り組むという観点から、特にGISやリモートセンシングの分野での最近の研究活動について発表やデモをして下さったすべての機関や訪問先の方々に対して心から感謝します。この分野における日本の努力はかなりのものであり、日本がすべての分野において同じ熱意と意気込みを持ち、人類と自然のためにますます卓越した取り組みを行うよう希望します。

最後にコースに参加した研修員全員は、私たちの関連分野ばかりでなく、日本の歴史、生活様式、社会の成り立ちや文化遺産について、私たちが持っていた知識を補足し、さらに学習する機会を提供して下さった日本国政府、JICA、国土地理院、筑波国際センターとともに日本の皆様に心から感謝します。さらに、異なる文化から来た研修員同士が交流し、団結と調和を強める場を与えられたことは我々全員にとって忘れられない体験でした。

ゲーラム・サルヴァール  
パキスタン測量局測量研修所  
副所長 / 主任教官



2002年地球環境地図作成技術コース研修員と関係者

## 地球地図の参加状況

<b>地球地図の参加状況</b>	2002年12月25日現在
地球地図の参加国・地域数	127ヶ国・地域
地球地図への参加を検討している国・地域数	18ヶ国・地域
<b>地球地図への最近の参加国</b>	2002年6月26日～12月25日

機関名	国名	参加日
天然資源環境商務産業省土地情報センター	ベリーズ	2002年6月27日
国家地理地籍局 - DINAGECA	モザンビーク	2002年7月11日
農業省土地測量局	ドミニカ	2002年7月29日
土地測量局	グレナダ	2002年7月29日
測量地図局	セントルシア	2002年7月29日
土地測量局	セントビンセントおよび グレナディーン諸島	2002年7月29日
農業土地海洋資源省土地測量局	トニダード・バゴ	2002年7月29日
コスタリカ国立地理院	コスタリカ	2002年8月20日
インド測量局	インド	2002年9月20日
土地測量環境局	サモア	2002年11月21日

## 地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

### 2003年

1月30日～31日、ベルギー、ブリュッセル

開発途上国のための持続可能な農業にむけて：  
生命科学及びバイオテクノロジーからの選択

4月7日～11日、ドイツ、フライブルク

第2回国際南極GISワークショップ  
SCAR GI技術専門家会合2003

5月12日～15日、

エチオピア、アディスアベバ  
第3回国連開発情報に関する委員会(CODI)会合

5月22日～23日、スイス

第16回ISO/TC211本会議

6月3日～6日、タイ、バンコク

ISPRS WG VI/8ワークショップ“全地球環境デー  
タベース現在 将来のニーズへの適応”

7月11日、日本、沖縄  
第10回ISCCGM会合

7月12日～14日、日本、沖縄  
地球地図フォーラム2003 in 沖縄

7月14日～18日、日本、沖縄  
第16回国連アジア太平洋地域地図会議

7月20日～25日、英国、ケンブリッジ  
ケンブリッジ会議

8月10日～16日、南アフリカ、ダーバン  
第21回国際地図学会議

10月または11月、ドイツ  
第17回ISO/TC211本会議

11月4日～8日、セネガル、ダカール  
アフリカGIS'03会議/展示会

**編集、発行** : 地球地図国際運営委員会事務局

**連絡先** : 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

**ホームページ** : <http://www.iscgm.org/>

**E-mail** : [sec@iscgm.org](mailto:sec@iscgm.org)